【三位】

テーマ：私の宝物　　名前：Thaw Zin Oo

私は家族が５人います。３人の兄弟で私は一番上です。兄弟は３人もいるのに全て男、性格も趣味もめいめい違います。幼い時から規則で縛られるのが嫌で、自由気ままに行動したくなるのが私の性格です。また、私は子供の頃から親がせっかく買ってきたジュースを冷たくないと言って、どうしても飲もうとしなかったり、色が好きでないという理由で母親が用意してくれた服を「着たくない」と言い、駄々をこねる事が少なくなかったそうです。その事について大人になった私に母は苦笑いしながら、「あなたは困った子だったよ」と話してくれました。それでも、私は長男だから大事にされ、真ん中の弟はかわいいから愛され、一番下の弟は末っ子だから好きといつも言うのが私の両親です。私は親だけではなく、誰の親でも子供を愛する気持ちは同じだと私は思います。親というのは感謝すべき存在だとひしひし感じています。

私達のミャンマーには自分の子供が５歳になるまでに、しばらく坊主にすると、次の髪は早くなり、そして強くなるという言い伝えがあったそうです。ですから、父は子供の私を何回も坊主にしたそうです。そのために今の私の髪は強すぎて坊主のスタイルしかできなくなってしまいました。本当は、私はロックの歌が大好きですから、ミャンマーの有名なロック歌手の「ミョージー」さんのように、これぐらいの髪をこうやってロックの歌を歌いたいですけど、今はできません。それで、いつも坊主にしている私は日本語のお坊さんの意味とは違いますが、友達に「お坊さん」と呼ばれています。それを日本語の文法でいうと「父のせい」と言えば良いのか、「父のおかげ」と言えば良いか今でもわかりません。

私は２００４年に高校を卒業し、日本語の勉強を始めました。日本語の勉強が一年間位たった時の事ですが、マンダレーのセドナ・ホテルで日本語のスピーチコンテストが行われ、それに参加するのに私は選ばれました。ですから、発表の日、日本語で「ありがとう」と「こんにちは」しか分からない私の父と母は私のスピーチを聞きに来てくれました。私が何についてスピーチをしているのか全く分からなかったでしょう。あいにく、私は賞をもらえませんでした。その夜はショックでよく眠れず、私の顔をじっと見てスピーチを聞いていた両親の顔が目に浮かんできました。自分達が理解できなくても、息子が一生懸命頑張っている事だから、少しでも力になるために来てくれた親、そんな親の愛情をスピーチコンテストのおかげで私は改めて感じる事ができました。

親は私達を生んでから、一生懸命育て、学校へ行かせ、しつけをよくしてくれたから、今の私達は大学生になることもできたし、日本語を習うこともできました。私達がどんな悪い事をしても一緒に謝ってくれる親、私達のひどい態度に対して腹を立てても愛情の大きさは変わらない親、そんな親は私達の「宝物」ではないでしょうか。「子は宝」という日本の言葉がありますが、本当は「親こそ宝」なのだと私は思います。皆さんもそうだと思いませんか。そうだと思えば、これから皆さんも、私も親のために、家族のために、国のために、そして世界のために一生懸命頑張っていきませんか。

これで私のスピーチを終わらせて頂きます。どうも、ありがとうございます。